

一般教育における「総合基礎科目」 の役割—その4 社会人参加の意義—

永田 照子 鈴木 万里
小川真理子

I. はじめに

昨今、大学教育における教養教育が見直され、重要視されてきている。特に本学のような短大の秘書科においては、専門科目に実務的な科目が多いが、同時に幅広い教養・知識も要求される。

このような観点から、平成5年度より教養・基礎科目に、一つの大きなテーマのもと、人文科学・社会科学・自然科学それぞれの視点から論ずる科目、すなわち「総合基礎科目」が設置された。

「総合基礎科目」においては、多くの種々の分野の講師を学外からも招いて、それぞれの専門分野の問題をわかりやすく講義していただくとともに、問題への取り組み方や生き方にも触れていただいている。短大においては、2年次早々に就職活動が始まる。そのためにも1年次にしっかりと社会の中での自分の生き方を学ぶことも有益なことである。

また、平成9年度から本学周辺地域に在住する一般市民(以下社会人と記す)参加の公開授業とし、地域との交流の場としての役割を担っているが、同時に、社会人と学生が机を並べて受講し、質問の時間を持つことによって異世代間コミュニケーションの場、相互理解の場ともなり得ると考えられる。このことは、学生にとって将来社会へ出る前の段階での人間形成の場として有意義であり、また社会人にとっても若者世代の理解として意味があることと思われる。

「総合基礎科目」の成果については平成9年度より調査を実施して報告をしているが^{1,2,3,)}、本報告では、「総合基礎科目」の意義・成果とともに、特に社会人参加の意義についてもさらに詳しく調べるために、学生、社会人の両者に対して受講前後にアンケート調査を実施して考察を試みることにした。

II. 平成 12 年度の総合基礎科目について

テーマは『心豊かに生きる』とした。過去数十年間で、日本は飛躍的な経済成長を遂げて、物質的に恵まれた生活を営むことが可能になったが、一方で物の豊さだけでは満たされない心の飢えや渴きを感じている人も増えている。また、経済的状況が徐々に悪化するにつれて、大量消費文化に対する反省や疑問が生まれ、よりシンプルな生き方をめざす傾向も現れている。自分探しや生きがいを見つけることに関心が集まり、納得のできる生き方や自分らしい価値観を模索する人々も多い。そこで、さまざまな分野で活躍中の講師を迎えて、身近な問題について考えながら「心の豊かさ」とは何かを今年度のシリーズを通して探してみたい。

テーマ：『心豊かに生きる』

各回の題：「あなたの環境成績表は？」

講師：小川真理子(本学芸術学部教授)

：「異文化としての日本」

講師：Anne Purdy(駒沢女子大学教授)、恵玲子(本学教授)

：「納得のできる生き方を選ぶ―官僚から農業家への転身―」

講師：土門秀樹

：「日本人の宗教観」

講師：加藤智見(本学芸術学部教授)

：「変貌する家族像」

講師：久田恵(ノンフィクション作家)

：「ポップ・カルチャーとしての音楽―時代を超えた音楽の楽しみ方―」

講師：豊住竜志(昭和音楽大学専任講師)

：「暮らしの中の法知識」

講師：三原園子(本学助教授)

：「自己実現とキャリア・アップ」

講師：福本麻由美(本学第 10 期卒業生 ANA 客室乗務員)

高木聖(本学助教授)

：「芸術表現と現代社会」

講師：池田陽子(本学芸術学部助教授)

：「日本語再点検―言語生活と人間関係―」

講師：塚越靖一(元 NHK アナウンサー)

講師は本学の専任教員の外、学外の各界で活躍中の人に依頼した。その際、なるべく世代の異なる講師になるよう、また、一人は社会で活躍している本学の卒業生に依頼し、受講生にとって身近な先輩として関心を持つことを期待した。

初回にはオリエンテーション、最終回にはまとめを実施した。

各回の講義ごとの簡単なレポート(講義に対する感想・意見・質問など)と期末のレポート(テーマに関連する問題を一つ取りあげ、関連する本を読んで講義と関連づけ、自分の考えを論述するもの)の提出を義務づけた。社会人には各回の講義ごとの簡単なレポートの提出をお願いした。

本年度の受講生は学生 159 名、社会人 117 名であった。社会人の年齢構成については、資料を収集してはいないが、おおよそ 30 代数名、40 代 10 数名、50 代～60 代が最も多く、70 代が数名であった。

III. アンケート調査について

調査は、受講生を対象に受講前と受講後に 2 回アンケート方式で行い、受講前の態度・意見と受講後の態度・意見、さらにその変化について調べることとした。社会人の受講者には前もって受講前の調査用紙を郵送し、初回に提出してもらった。受講後の調査は別途受講後に懇談会を催し、アンケート調査とともに感想・意見を聞いた。

1. 受講前の調査(付表 1, 2 受講前アンケート用紙参照)

調査項目は平成 11 年度との比較をする意味でいくつかの項目は同じものが用いられた。すなわち 21 世紀について持っている希望、不安、さらに社会問題、情報社会、環境問題への関心・興味、などである。その他、女性の生き方に関する項目、リサイクルや環境への配慮についての項目も前年度に続いて設けられた。さらに、本年度は心を豊かにしてくれているもの、総合基礎科目のシリーズで関心のあるテーマについての項目が加えられた。

社会人に対する調査も学生と大体同じものであった。

2. 受講後の調査(付表 3, 4 終了時アンケート用紙参照)

調査項目は、本年度の総合基礎科目のシリーズで関心を持った問題、受講後の認識・態度の変化、現代社会で最も重要なこと、などであったが、これらの数項目は平成 11 年度と同じものであり、また数項目は受講前と同じにして受講前後の変化を調べることにした。社会人参加に対する意見も求めた。

社会人に対する調査には学生に対する感想などが加えられた。

IV. 調査の結果について

自由記述については本報告では割愛されている。本年度の報告では前年度の比較とともに社会人との比較に重点を置き，そこから見えてくる一般教育における「総合基礎科目」のあり方について考察を試みたい。

1. 受講前の調査

1) このシリーズで関心のあるテーマについて(表1)

学生は「ポップ・カルチャーとしての音楽」に最も関心を持っており、「自己実現とキャリア・アップ」，「納得のできる生き方を選ぶ」と続いている。一方，社会人は「変貌する家族像」に最も関心を持っており，「納得のできる生き方を選ぶ」，「日本語再点検」と続いている。学生の1位と社会人の1位の分布に基づく尤度比検定の結果，表中で上向きの矢印(↑)2つは1%水準で，1つは5%水準で他の項目との比較においてその項目を選択した者の比率が高いことを表し，下向きの矢印(↓)は低いことを表している。「ポップ・カルチャーとしての音楽」が社会人よりも学生に関心を持たれていることが，「変貌する家族像」が学生より社会人に関心を持たれていることが示された

表1 本年度のシリーズで関心を持っているテーマ

	学 生				社 会 人			
	1位	2位	3位	加重評点*	1位	2位	3位	加重評点
ポップ・カルチャーとしての音楽	53↑↑	23	18	223	3↓↓	4	2	19
自己現実とキャリア・アップ	20	27	24	138	10	12	6	60
納得のできる生き方を選ぶ	20	22	16	120	18	15	14	98
異文化としての日本	15	8	12	73	9	5	5	42
変貌する家族像	12↓↓	25	18	104	27↑↑	20	14	135
暮らしの中の法知識	8	11	17	63	5	6	10	37
日本語再点検	6	11	17	57	9	16	19	78
あなたの環境成績表は？	5	5	5	30	8	6	7	43
芸術表現と現代社会	3	10	7	36	1	5	4	17
日本人の宗教観	3	3	10	25	6	7	15	47
合 計	145	145	144		96	96	96	

* 1位を3点，2位を2点，3位を1点として加算した値

上向きの矢印2つ(↑↑)は1%の有意水準で，1つ(↑)は5%の有意水準で他の項目との比較においてその項目を選択した者の比率が高いことを，下向きの矢印2つ(↓↓)は1%の有意水準で，1つ(↓)は5%の有意水準で他の項目との比較においてその項目を選択した者の比率が低いことを示す(学生の1位と社会人の1位の比較)。

(1%水準)。学生は身近な問題に関心があり、社会人は生き方や家族の問題により関心があることがわかる。

2) 21 世紀への希望について(表 2)

世界の平和、生活の豊かさ、環境の整備の順で、これらは学生、社会人とも共通であった(尤度比検定の結果は有意差なし)。日常の生活に直接かかわる問題への願望であろう。

表 2 21 世紀への希望 (3 つまで回答可)

	学 生		社 会 人
	平成 12 年 (%)	平成 11 年 (%)	平成 12 年 (%)
世界の平和	87 (22.5)	—* (—)	45 (18.2)
生活の豊かさ	66 (17.1)	121 (22.4)	37 (15.0)
環境の整備	66 (17.1)	91 (16.9)	54 (21.9)
宇宙への進出	47 (12.2)	95 (17.6)	23 (9.3)
女性の地位の向上	47 (12.2)	67 (12.4)	30 (12.1)
科学技術の発展	30 (7.8)	75 (13.9)	24 (9.4)
国際交流の発展	28 (7.3)	64 (11.9)	28 (11.3)
開発途上国の発展	15 (3.9)	27 (5.0)	6 (2.4)
述べ回答数	386	540	247

* 該当項目の無いことを示す

3) 21 世紀への不安(表 3：表中の矢印は学生と社会人の分布に基づく尤度比検定の結果)

学生の場合、環境破壊、地震・災害、戦争の順で、学生にとって、環境破

表 3 21 世紀への不安 (3 つまで回答可)

	学 生		社 会 人
	平成 12 年 (%)	平成 11 年 (%)	平成 12 年 (%)
環境破壊	103 (26.5)	167 (31.6)	79 (29.6)
地震・災害	↑↑ 83 (21.5)	142 (26.9)	↓↓ 22 (8.2)
戦争	↑ 60 (15.5)	10 (1.9)	↓ 21 (7.9)
経済の行き詰まり	51 (13.1)	112 (21.2)	31 (11.6)
エイズのまんえん	↑↑ 45 (11.6)	32 (6.1)	↓↓ 6 (2.2)
エネルギーの不足	↓↓ 16 (4.1)	31 (5.9)	↑↑ 29 (10.9)
社会保障の先細り	↓↓ 16 (4.1)	31 (5.9)	↑↑ 63 (23.6)
人口の増加	14 (3.6)	3 (0.6)	16 (6.0)
述べ回答数	388	528	267

壊、地震・災害、戦争、エイズの蔓延は彼女たちにとって 21 世紀を生きていくために身近で不安な問題であり、一方、社会人では環境破壊、社会保障の先細り、エネルギーの不足の順で、それらは社会人にとってこれからの生活への身近な不安なのであろう。学生の戦争への不安が社会人より高いが、前項の世界の平和への希望の高さとともに注目される。世界各地での民族紛争がそのような結果をもたらしたのであろうか。社会人がそれほど戦争に対して高くないのは、日本を巻き込む戦いは起こらないであろうという見通しからなのか、それとも身近な生活への不安が優先しているということであろうか。

4) 社会問題への関心(表 4：表中の矢印は学生と社会人の分布に基づく尤度比検定の結果)

学生はファッション、景気、幼児虐待、社会人は景気、少子化現象、幼児虐待の順であった。学生と社会人の違いは、ファッション、セクハラ、幼児虐待が学生により関心が高く、少子化現象、異文化の交流、ホームレスが社会人により関心が高かった。景気はいずれにおいても関心が高かった。それぞれの世代に身近な社会問題への関心が高いことがわかる。

表 4 社会問題への関心 (3 つまで回答可)

	学 生		社 会 人
	平成 12 年 (%)	平成 11 年 (%)	平成 12 年 (%)
ファッション	↑↑ 78 (21.6)	144 (26.1)	↓↓ 3 (1.2)
景気	78 (21.6)	142 (25.8)	58 (22.8)
幼児虐待	↑ 75 (20.8)	— (—)	↓ 36 (14.2)
少子化現象	↓↓ 24 (6.6)	70 (12.7)	↑↑ 55 (21.7)
セクハラ	↑↑ 23 (6.4)	41 (7.4)	↓↓ 1 (0.4)
難民	21 (5.8)	53 (9.6)	15 (5.9)
引きこもり	21 (5.8)	— (—)	22 (8.7)
異文化の交流	↓ 17 (4.7)	42 (7.6)	↑ 25 (9.8)
経済摩擦	11 (3.0)	20 (3.6)	15 (5.9)
ホームレス	↓ 8 (2.2)	31 (5.6)	↑ 15 (5.9)
その他	5 (1.4)	8 (1.5)	9 (3.5)
述べ回答数	361	551	254

5) 情報社会への関心(表 5：表中の矢印は平成 12 年の学生と社会人の分布に基づく尤度比検定の結果)

インターネット、パソコン通信への関心が学生、社会人ともにきわだって高

い。あと学生はコンピュータによる作曲・演奏に，社会人は電子マネー，電子出版に関心が寄せられている。

表5 情報社会への関心（複数回答可）

	学 生		社 会 人
	平成 12 年 (%)	平成 11 年 (%)	平成 12 年 (%)
インターネット	133 (38.8)	215 (44.5)	79 (38.2)
パソコン通信	87 (25.4)	116 (24.0)	56 (27.1)
コンピュータで絵を描く	30 (8.7)	49 (10.1)	11 (5.3)
コンピュータによる作曲・演奏	↑↑ 34 (9.9)	46 (9.5)	↓ 7 (3.4)
動画(アニメ・映画)の作成	26 (7.6)	35 (7.2)	8 (3.9)
電子マネー	↓↓ 20 (5.8)	— (—)	↑ 28 (13.5)
電子出版(編集・出版など)	↓↓ 10 (2.9)	21 (4.3)	↑ 14 (6.8)
その他	3 (0.9)	1 (0.2)	4 (1.9)
述べ回答数	343	483	207

6) 環境問題への関心(表6：表中の矢印は平成12年の学生と社会人の分布に基づく尤度比検定の結果)

地球の温暖化に対しては学生，社会人ともに高い。次いで，学生はオゾン層の破壊，空気・水の汚染，リサイクル，動物の絶滅，と続く。一方，社会人は空気・水の汚染，環境ホルモン，遺伝子組換え食品と続く。日々の生活を安全に過ごすための環境への関心事であるが，両者で若干くい違いがある

表6 環境問題への関心（3つまで回答可）

	学 生		社 会 人
	平成 12 年 (%)	平成 11 年 (%)	平成 12 年 (%)
地球の温暖化	65 (17.1)	138 (22.6)	49 (18.4)
オゾン層の破壊	↑↑ 63 (16.5)	131 (21.4)	↓↓ 23 (8.6)
空気・水の汚染	62 (16.3)	129 (21.1)	45 (16.9)
リサイクル	36 (9.4)	77 (12.6)	24 (9.0)
動物の絶滅	↑↑ 34 (8.9)	58 (9.5)	↓↓ 4 (1.5)
身近な自然の消滅	29 (7.6)	56 (9.2)	25 (9.4)
環境ホルモン	↓ 29 (7.6)	— (—)	↑ 35 (13.2)
食品添加物	27 (7.1)	— (—)	22 (8.3)
遺伝子の組換え食品	↓↓ 23 (6.0)	— (—)	↑↑ 35 (13.2)
熱帯雨林の破壊	13 (3.4)	20 (3.3)	3 (1.1)
その他	0 (0.0)	2 (0.3)	1 (0.4)
述べ回答数	381	611	266

のは、日常生活でのより身近な問題は何かの認識の違いであろう。

7) リサイクルおよび環境への配慮の実行について(表7:表中の矢印は各項目ごとの平成12年の学生と社会人の分布に基づく尤度比検定の結果)

前項で環境への関心の強さが示されたが、ではリサイクルや環境への配慮をどの程度実行しているのだろうか。すべての項目について社会人の方が多く実行していた。社会人の方は、牛乳パック、発泡スチロール、ペットボトル、ビン・缶、古紙、ボタン電池・乾電池の分別収集については50%~70%を越える人が実行している。携帯電話使用の配慮については社会人の場合、持っていない人が多い(印なしの数が多いことからいえる)ため、比率は低いが実行している人は学生より多い傾向がみられる。学生については、平成11年度の調査の結果とあまり変わりがないが、携帯電話については若干考慮している傾向がみられる。昨今の電車やバスでの不使用のキャンペーンの成果であろう。合成洗剤や殺虫剤の不使用については学生、社会人とも実行している人の割合は低い。リサイクルや環境への配慮の実行については家庭での協力体制がもっと進められるべきことを示唆している。

表7 リサイクルおよび環境への配慮の実行について (%)

		◎	○	×	印なし
牛乳パック	学生(平成12年)	24.0↓↓	37.0↑	20.5↑↑	18.5
	(平成11年)	29.1	44.3	9.0	17.6
	社会人(平成12年)	54.6↑↑	21.6↓	0.0↓↓	23.7
発泡スチロールトレイ	学生(平成12年)	26.0↓↓	27.4	26.0↑↑	20.5
	(平成11年)	20.5	32.8	20.1	26.6
	社会人(平成12年)	61.9↑↑	21.6	0.0↓↓	16.5
ペットボトル	学生(平成12年)	32.9↓↓	44.5↑↑	6.8↑	15.8
	(平成11年)	30.7	45.9	5.7	17.6
	社会人(平成12年)	62.9↑↑	20.6↓↓	0.0↓	16.5
ビン・缶	学生(平成12年)	39.7↓↓	39.7↑↑	9.6↑↑	11.0
	(平成11年)	48.8	32.8	2.5	16.0
	社会人(平成12年)	73.2↑↑	9.3↓↓	0.0↓↓	17.5
古紙	学生(平成12年)	32.2↓↓	32.2↑↑	16.4↑↑	19.2
	(平成11年)	29.6	34.2	11.9	24.3
	社会人(平成12年)	73.2↑↑	9.3↓↓	1.0↓↓	14.4
衣類	学生(平成12年)	15.1↓↓	31.5	29.5↑↑	24.0
	(平成11年)	11.1	29.6	26.7	32.5
	社会人(平成12年)	41.2↑↑	25.8	5.2↓↓	27.8

ボタン電池・乾電池	学生(平成 12 年)	17.8↓↓	26.7↑↑	30.8↑↑	24.7
	(平成 11 年)	19.3	25.0	25.8	29.9
	社会人(平成 12 年)	57.7↑↑	10.3↓↓	2.1↓↓	29.9
生ゴミの減量 ゴミの減量*	学生(平成 12 年)	5.5↓↓	30.1	37.7↑↑	26.7
	(平成 11 年)	14.4	48.6	14.0	23.0
	社会人(平成 12 年)	34.0↑↑	42.3	5.2↓↓	18.6
合成洗剤の不使用	学生(平成 12 年)	3.4	16.4↓↓	50.0↑↑	30.1
	(平成 11 年)	4.9	30.9	34.2	30.0
	社会人(平成 12 年)	7.2	42.3↑↑	19.6↓↓	30.9
エネルギーの節約	学生(平成 12 年)	23.3	39.7	13.7	23.3
	(平成 11 年)	25.5	32.9	16.9	24.7
	社会人(平成 12 年)	26.8	48.5	4.1	20.6
殺虫剤の不使用	学生(平成 12 年)	2.7	13.0↓↓	50.7↑↑	33.6
	(平成 11 年)	3.7	12.3	49.6	34.4
	社会人(平成 12 年)	6.2	37.1↑↑	18.6↓↓	38.1
影響を考慮した携帯 電話の使用	学生(平成 12 年)	13.7	40.4↑↑	24.0↑↑	21.9↓↓
	(平成 11 年)	11.5	28.5	28.3	32.0
	社会人(平成 12 年)	21.6	15.5↓↓	8.2↓↓	54.6↑↑

◎：リサイクルおよび環境への配慮を実行しているもの

○：気になっているがいつも心がけているわけではないもの

×：全く考えていないもの

印なし：いずれでもないもの

*：平成 11 年度はゴミの減量と表記

8) 母親(最も身近な女性)の状況(表 8)

パートタイムで仕事,フルタイムで仕事,家事中心の順で,平成 11 年度と比べてわずかではあるが,フルタイムで仕事家事中心を上回った。何らかの形で仕事をずっと続ける母親が増える傾向にある(尤度比検定の結果は有意差はない)。

9) 将来の生き方(表 9)

フルタイムであれ,パートタイムであれ,仕事にずっと関わっていきたいとする人は約 81%であり,平成 11 年度の約 70%より増加している。前項の結果との関わりで考えると,母親(最も身近な女性)の生き方の影響を受けているのかもしれないが,単に経済の不況の影響なのかもしれない。ただ昨年の報告³⁾で母親の影響の存在が認められているので,母親の影響は少なからず存在すると思われる。受講後の変化については後で述べることにする。

表 8 母親（最も身近な女性）の状況

	平成 12 年 人数 (%)	平成 11 年 人数 (%)
パートで仕事	57 (38.8)	98 (37.3)
フルタイムで仕事	37 (25.2)	56 (21.3)
家事中心	32 (21.8)	63 (24.0)
趣味を楽しむ	13 (8.8)	33 (12.5)
生涯学習	3 (2.0)	3 (1.1)
ボランティアで活躍	1 (0.7)	7 (2.7)
その他	4 (2.7)	3 (1.1)
合 計	147	263

表 9 将来の生き方

項 目	受講前 (%)	受講後 (%)
育児から手が離れたらパートタイムの仕事につきたい	84 (57.5)	79 (56.0)
育児から手が離れたら再びフルタイムの仕事につきたい	21 (14.4)	24 (17.0)
結婚・出産に関わらず仕事を続ける	15 (10.3)	17 (12.1)
結婚後、出産したら仕事はずっと辞める	10 (6.8)	5 (3.5)
結婚したら仕事はずっと辞める	7 (4.8)	6 (4.3)
結婚・出産に関わりなく仕事はつきたくない	2 (1.4)	2 (1.4)
その他	7 (4.8)	8 (5.7)
合 計	146	141

10) 心を豊かにしてくれているもの(表 10：表中の矢印は受講前の学生と社会人の分布に基づく尤度比検定の結果)

学生においては、友人、家族、恋人、趣味の順、社会人においては、家族、趣味、友人、時間の順であった。両者で有意に異なっていたのは、友人、恋人、趣味、読書、勉学、仕事で、学生は人間関係により心の豊かさを求め、社会人は家族に心の豊かさを求める外は、自分自身を高める対象に心を豊かにしてくれるものを選択している。家族というものに対する世代間の意識の違いが読み取れる。

表 10 心を豊にしてくれているもの (3 つまで回答可)

	学 生		社 会 人
	受講前 (%)	受講後 (%)	受講前 (%)
友人	↑↑ 118 (28.9)	106 (25.3)	↓↓ 33 (11.9)
家族	88 (21.5)	72 (17.2)	68 (24.5)
恋人	↑↑ 52 (12.7)	57 (13.6)	↓↓ 0 (0.0)
趣味	↓↓ 49 (12.0)	57 (13.6)	↑↑ 55 (19.8)
お金	43 (10.5)	57 (13.6)	26 (9.4)
時間	40 (9.8)	53 (12.6)	28 (10.1)
スポーツ	8 (2.0)	3 (0.7)	7 (2.5)
読書	↓↓ 5 (1.2)	4 (1.0)	↑↑ 19 (6.8)
仕事	↓ 3 (0.7)	4 (1.0)	↑ 9 (3.2)
先生	0 (0.0)	1 (0.2)	4 (1.4)
信仰	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (1.8)
勉学	↓↓ 0 (0.0)	2 (0.5)	↑↑ 14 (5.0)
ボランティア	0 (0.0)	0 (0.0)	7 (2.5)
その他	3 (0.7)	3 (0.7)	3 (1.1)
延べ回答数	409	419	278

2. 受講後の調査について

- 1) 今年度のシリーズで関心を持ったテーマについて(表 11-1, 11-2: 表中の矢印は表 11-1 は学生の 1 位と社会人の 1 位の分布に基づく尤度比検定の結果, 表 11-2 は学生の受講前と受講後の分布に基づく尤度比検定の結果)

学生は「自己実現とキャリア・アップ」が最も多く、次いで「納得のできる生き方を選ぶ」、「変貌する家族像」、「ポップ・カルチャーとしての音楽」であった。社会人は「納得のできる生き方を選ぶ」が最も多く、次いで「変貌する家族像」、「ポップ・カルチャーとしての音楽」、「自己実現とキャリア・アップ」であった。学生にとっては自分に身近な本学の卒業生の話に惹き付けられた、ということであり、社会人にとっては著名なノンフィクション作家の話に惹き付けられた、ということであろうか。受講前後の順位づけの比較(尤度比検定)では、学生は「自己実現とキャリア・アップ」が受講後増加し(1%水準)、「ポップ・カルチャーとしての音楽」、「異文化としての日本」が減少している(1%水準)。社会人では受講前後の順位づけの比較では有意な差は認められなかった。学生の場合、話の内容によって、より身近に感じたものに関心が集まったことがその理由と考えられる。

表 11-1 本年度のシリーズで受講後関心を持ったテーマ

	学 生				社 会 人			
	1 位	2 位	3 位	加重評点*	1 位	2 位	3 位	加重評点
自己現実とキャリア・アップ	89↑↑	26	9	238	3↓↓	4	7	24
納得のできる生き方を選ぶ	24	44	26	186	16	18	2	86
変貌する家族像	12↓↓	17	31	101	16↑↑	13	10	84
ポップ・カルチャーとしての音楽	8	19	21	83	3	5	8	27
異文化としての日本	3	11	24	55	2	1	2	10
日本語再点検	2	8	8	30	1	4	7	18
あなたの環境成績表は？	1	4	6	17	8	3	5	35
日本人の宗教観	1	2	3	10	6	5	5	33
芸術表現と現代社会	1	1	2	7	1	1	6	11
暮らしの中の法知識	0	3	4	10	0	2	4	8
合 計	141	135	134		56	56	56	

* 1 位を 3 点，2 位を 2 点，3 位を 1 点として加算した値

表 11-2 本年度のシリーズで関心を持ったテーマの受講前と受講後の 1 位の比較

	学 生		社 会 人	
	受講前	受講後	受講前	受講後
ポップ・カルチャーとしての音楽	53 ↑↑	8 ↓↓	3	3
自己現実とキャリア・アップ	20 ↓↓	89 ↑↑	10	3
納得のできる生き方を選ぶ	20	24	18	16
異文化としての日本	15 ↑↑	3 ↓↓	9	2
変貌する家族像	12	12	27	16
暮らしの中の法知識	8 ↑	0 ↓	5	0
日本語再点検	6	2	9	1
あなたの環境成績表は？	5	1	8	8
日本人の宗教観	3	1	6	6
芸術表現と現代社会	3	1	1	1
合 計	145	141	96	56

また，テーマとしては地味であるが，受講後強く関心が持たれたものも数は少ないが認められた。

2) 現代社会で最も重要なこと(表 12)

学生，社会人ともに家庭のあり方が最も重要なものとしてあげられた。次いで環境の整備，経済の動向であり。学生，社会人とも同じ傾向であった。平成 11 年度の学生の結果と比較してみると，家庭のあり方が環境の整備を抜いて 1 位である(平成 11 年度は 2 位であった)ことは，親の子に対する犯罪，

子の親に対する犯罪が増え、マスコミなどでもしばしば取りあげられていることと無関係ではあるまい。

表 12 現代社会で最も重要なこと

	学 生		社 会 人
	平成 12 年 (%)	平成 11 年 (%)	平成 12 年 (%)
家庭のあり方	38 (27.1)	39 (16.9)	20 (35.7)
環境の整備	30 (21.4)	73 (31.6)	9 (16.1)
経済の動向	22 (15.7)	58 (25.1)	7 (12.5)
福祉	14 (10.0)	— (—)	4 (7.1)
国際政治問題(民族紛争・ 難民など)	10 (7.1)	30 (13.0)	3 (5.4)
情報化社会	10 (7.1)	17 (7.4)	3 (5.4)
食料の自給, 安全性	8 (5.7)	— (—)	4 (7.1)
エネルギー問題	3 (2.1)	6 (2.6)	0 (0.0)
異文化交流	2 (1.4)	3 (1.3)	0 (0.0)
その他	3 (2.1)	5 (2.2)	6 (10.7)
回答数合計	140	231	56

3. 受講前と受講後の認識・態度の変化について

1) 受講後の認識・態度の変化について(表 13)

12 項目について、「変わった」から「変わらない」まで 5 段階評価と、同時に簡単な理由の記述を求めた。その結果は表 13 に示されている。

12 項目についての全体的な変化をみるため、それぞれの値を仮に独立と見做し⁴⁾、12×5 のマトリックスによる尤度比検定を行った⁵⁾。表 13 において、上向きの矢印(↑)2 つは 1%の有意水準で、1 つは 5%の有意水準で他の項目との比較においてその項目を選択した者の比率が高いことを示し、下向きの矢印(↓)はそれぞれの項目を選択した者の比率が低いことを示している。また 5 段階評価について「変わらない」1 点、「あまり変わらない」2 点、「どちらともいえない」3 点、「少し変わった」4 点、「変わった」5 点として加重平均値を算出した。

表 13 に示された尤度比検定の結果と加重平均値から、女性のキャリア・アップ、農業に対する考え方、ことば遣いについて、そしてこれからの生き方についてが変化の見られた項目といえよう。

女性のキャリア・アップについては、自分たちの先輩の生き生きとした仕

表 13 受講後の認識・態度の変化（学生）

	変わらない	あまり変わらない	どちらともいえない	少し変わった	変わった	加重平均値*
女性のキャリア・アップ 人数(N=140)** について (%)	18↓↓ (11.6)	2 (1.7)	17↓↓ (19.8)	29 (22.8)	74↑↑ (44.0)	3.99
農業に対する考え方 人数(N=138) (%)	22↓↓ (13.0)	2 (2.2)	24↓ (22.9)	39↑ (30.7)	51↑↑ (31.2)	3.69
ことば遣いについて 人数(N=139) (%)	18↓↓ (17.0)	4 (1.3)	34 (18.7)	39↑ (27.8)	43↑ (35.2)	3.60
外国人との付き合い方について 人数(N=139) (%)	22↓↓ (17.4)	3 (3.5)	42 (24.8)	34 (25.2)	38 (29.1)	3.45
環境問題(放射能・ダイオキシン・二酸化炭素など) 人数(N=140) (%)	25↓↓ (17.2)	7 (3.9)	29 (29.7)	39↑ (27.2)	40 (22.0)	3.44
これからの生き方について 人数(N=140) (%)	28↓ (20.2)	5 (2.1)	33 (26.6)	32 (30.5)	42↑ (20.6)	3.39
文楽と写真について 人数(N=139) (%)	40 (18.1)	7 (3.4)	42 (31.0)	27 (28.4)	23 (19.0)	2.90
家庭のあり方について 人数(N=140) (%)	49 (21.4)	4 (4.5)	41 (48.7)	28 (11.6)	18↓↓ (13.8)	2.73
音楽の楽しみ方について 人数(N=141) (%)	56↑↑ (26.4)	2 (5.6)	36 (34.2)	23 (23.8)	20↓ (10.0)	2.61
法知識について 人数(N=137) (%)	48 (27.2)	8 (4.8)	46↑ (47.4)	19 (13.2)	16↓↓ (7.5)	2.61
結婚に対する考え方 人数(N=141) (%)	74↑↑ (39.8)	5 (6.5)	39 (34.6)	14↓↓ (13.4)	9↓↓ (5.6)	2.14
宗教に対する考え方 人数(N=140) (%)	71↑↑ (54.3)	10↑ (6.5)	41 (26.7)	10↓↓ (8.6)	8↓↓ (3.9)	2.10

* 変わらない1点，あまり変わらない2点，どちらともいえない3点，少し変わった4点，変わった5点として加重平均値を算出

** N=人数の合計が項目によって異なるのは無回答を除いているためである。

上向きの矢印2つ(↑↑)は1%の有意水準で，1つ(↑)は5%の有意水準で他の項目との比較においてその項目を選択した者の比率が高いことを，下向きの矢印(↓↓)はその項目を選択した者の比率が低いことを示す。

事ぶりに触発されたと考えられる。農業に対する考え方は，講師の具体的なそしてわかりやすい農業への取り組み方の話が，学生にとって日常あまり馴染みのない農業の問題についての意識を学生たちに新たに持たせたといえよう。また，ことば遣いについては，平常の授業で取りあげられていることば遣い，特に敬語や同音異義語の問題について，元アナウンサーである講師による豊富な経験に基づく実例の数々が，学生たちに一層わかりやすくかつ重要な問題として認識されたということであろう。これからの生き方について

は女性のキャリア・アップとの関連で若干変化が見られる傾向にあるといえよう。

逆に変わらないものとして、結婚に対する考え方、宗教に対する考え方、そして音楽の楽しみ方であった。結婚に対する考え方は平成 11 年度も同様であった。自分にとって重要であるかどうかは別にして結婚に対する考え方は変わらないようである、あるいはまだ先のことで考えたくないのかもしれない。

2) 将来の生き方の受講前と受講後の変化について(表 9)

いずれの形であれ仕事を続けたい人が増えている傾向はみられるが、尤度比検定の結果は前後で有意な変化は認められなかった。

3) 心を豊かにしてくれているもの(表 10)

この項目についても受講前と受講後での変化は認められなかった。

V. 講義レポートおよび期末レポートについて

1) 講義レポートについて

講義ごとに感想・意見・質問などのレポートを提出させたが、この意味は講義をしっかりと聞くこと、講義を自分なりに咀嚼して理解できたことと疑問点そして質問点を明らかにし、それを文章に表すことであった。おぼなりのレポートもあったが、8 割近くの学生はいずれの分野の講義も自分なりに受とめていた。受講前には関心がなかった分野の講義を聞いてこんなに面白いものとは知らなかったと感想を書いている学生も少なからず存在した。また数は少ないが、びっしりと細かい字で B5 の用紙に講義の内容・感想・質問・疑問点を分けて書いている学生もいた。

また、いずれの講師の講義の場合もそれぞれになぜその道に進んだのかを話していただくようお願いをしていたので、生き方についての感想も多く見られた。

なお、社会人にも講義レポートを提出してもらった。詳しく感想・意見・質問が述べられていた。

質問については各講師から後刻回答をそれぞれいただいている。

2) 期末レポートについて

各講師より参考書をそれぞれ 2～3 冊あげていただいたが、そのほか各自で選んだ本を含めテーマに関連する本を 1 冊読んで、講師の講義、本の内容、自分の考えを論述するものであった。昨今の学生の活字離れに歯止めをかける意図もあった。取りあげた問題は「自己実現とキャリア・アップ」が突出

して多く、あと「変貌する家族像」，「納得のできる生き方を選ぶ」，「環境成績表は？」，「日本語再点検一言語生活と人間関係」の順であった。期末レポートについては評価・コメントを付して学生に返却している。社会人には期末レポートの提出は求めている。

3) 講義レポート，期末レポートの評価について

各回の講義レポートはA(優れている)，B(普通)，C(もう少し頑張ろう)の3段階で評価をしたが，観点は講義への関心・興味，理解度，自分の意見・質問の有無，文章表現についてなどであった。

期末レポートの作成にあたっては，最後のまとめの授業でレポートの書き方，すなわち，全体の構成，論点のまとめ方，文献の引用の仕方，講師の意見・本の主張・それらに対する自分の意見がそれぞれ明確にわかるように論ずること，事実と意見をはっきり区別すること，誤字・脱字に注意することなど，を指導した。これは授業と直接関わりがないが，学生の今後の学生生活および社会生活において重要と考えられるので，評価の対象の一部とした。期末レポートは招いた講師ではなく担当教員が評価にあたった⁶⁾。講師の講義内容の理解の深さ，参考文献として読んだ本の理解度，取りあげ方，講師の話と文献との関連性，学生自体の考え，レポートの書き方などを基に5段階で評価を行った。

講義レポートでは，気づかなかった問題に関心を持った，新しい知識が得られた，講師の生き方に感動した，自分との関わりについてなどの記述が多い。どちらかという后感想の部分が多かった。一方，期末レポートはシリーズの中で関心を持った問題に自分なりに取り組む姿勢がみられた。講師の講義内容，参考文献についての自分の意見が述べてあり，今後こんなことをさらに勉強したい，調べたい，こんな風に頑張りたい，生きたいといった記述の中に意欲が感じられた。なかにはこんな点に疑問が残る，といった問題の指摘も若干見られた。

なお，「総合基礎科目」としての評価は期末レポートを主に，講義レポート，出席点を加味して行った。

VI. 社会人の参加について

今年度は昨年にも増して117名(平成11年度は30名)の参加があった。さらに今年は男性10数名の参加(昨年度までは女子のみであった。女子のみとしたわけではない)もあった。社会人の方々は非常に熱心な態度で受講し，必ず質問，意見が出た。幅広い，種々の角度からの質問で講師の方も質問に

詳しく答えてくださり、授業が盛り上がった。学生たちにとって、父母の世代、祖父母の世代の人たちが世の中のさまざまな問題についてあるいは若い世代についてどのような考えを持っているのかを知る良い機会となり得たと思われる。

他方、学生は大勢の前で質問するのは非常に勇気がいることのように、ほとんど質問が出なかった。最近の受身的な無気力に見える学生には、社会人の参加は大いに刺激となったようである。

一方、社会人にとっても机を並べることにより、今時の若い世代の学生の考え、態度、ファッションやことば遣いなどを知る機会にもなり、若者理解に役立つとの声が聞かれた。

社会人の参加は学生にとっても、社会人にとっても、普段家庭のなかでのコミュニケーションが激減している現在、異世代間コミュニケーションの場、そして相互理解の場となり得る意味で意義のあることである。

VII. 考察

今年度は学生と社会人の比較に焦点をあてて、結果を述べてきた。社会の種々の問題についての態度には両者の間に当然のことながら違いがある。特に心を豊かにしてくれるものについて、学生は友人をまずあげ、社会人は家族をあげている。青年期において、心の拠り所を友人におくことは心理学的に見てももっともなことではある。一方、社会人は何よりも家族である。この講義に参加している社会人の年齢層は50代以降が半数以上を占めている。その人たちにとっては、家族との交流が心を豊かにする何よりの源なのであろう。しかし、次に趣味や読書、勉学など自分自身を高める対象に豊かさを求めているのに対し、学生のそれらへの関心が薄いのは残念に思われる。また、お金の存在も心を豊かにするものとして、両者から選択されていることも見逃せない。

これらの両者の違いは生き方の違いにも関わってくる。違いをお互いが認識する場として「総合基礎科目」をもっと活用し、学生にとっても社会へ出る前の人間形成の場として活かしていけるようにしたいと考えている。講義のあとでたっぷり時間をとって、社会人と学生の交流の場を増やし、深める機会を作ることが必要である。これらのことが一般教育における「総合基礎科目」の重要な役割となり得ると考えられる。

本報告では学生と社会人の比較に焦点をあてたが、社会人といっても性、年齢、仕事など、さまざまな点で異なる層の人々を一括して分析を進めてき

た。アンケートでそれらを聞かなかったためであり、これは分析を進めるうえで不十分であった。ただ、学生と、学生という立場ではなく実社会で生活している年齢も学生よりは上の人々（社会人）との比較はそれなりに意味はあったと考えられる。社会人をもっと詳細なセグメントで分析し、学生と比較検討することで更なる有意義な展開が期待されると考えられるが、これは今後の課題としたい。

社会人の参加が増えるということは喜ばしいことである反面、社会人の層が広がることにより、もっと突っ込んだ、深い内容のものをという要望も出ている。しかし、短大1年次のしかも前期である旨を了解していただくように努めている。

いずれにしても、学生と社会人の間で両方向性の議論のある活気ある科目とするよう努めたいと思う。

現在、本学では「総合基礎科目」を社会人参加の公開授業としているが、将来、社会人の方々に正規学生として単位取得を希望する教科を受講可能にすれば、授業自体が活性化し、さらに異世代間のコミュニケーションが図られ、相互理解も深まることが期待される。

VIII. おわりに

「総合基礎科目」を開講して8年、社会人の参加を始めて4年になる。その間いろいろの専門、職業、生き方の異なる講師の話から学生がどこかで何かを掴んでくれたと思う。多くの学生が感激した講師もいれば、数少ないが深く感じてその後の方向が変わった学生も存在した。

しかし、話を聞いて自分も前向きにと思っていても、授業が終わるとそのままになってしまう学生が大半である。授業の後、継続して考え行動する場を与えることが、この授業を活かす道ではないかと思われる。

注および引用・参考文献

- 1) 永田照子, 小川真理子「一般教育における『総合基礎科目』の役割」, 飯山論叢, 第15巻第1号, pp.44~62, 1998年
- 2) 永田照子, 小川真理子「一般教育における『総合基礎科目』の役割—その2—」, 飯山論叢, 第16巻第1号, pp.88~105, 1999年
- 3) 永田照子, 小川真理子「一般教育における『総合基礎科目』の役割—その3—」, 飯山論叢, 第17巻第1号, pp.40~61, 2000年
- 4) 各項目への回答は同一被験者のものである。したがって、各項目への回答は連

関をもつ可能性がある。その点を考慮すると、質問項目のあらゆる2つずつの組み合わせへの回答のクロス表について個々に例えば臨界比検定、カイ二乗検定、尤度比検定を行うのが統計理論上は正確であろう。66個の検定結果が得られるが、66個の検定結果を基に、結果の全体像を描くことは困難であろう。そこで便宜的に統計的前提として独立と見做して検定を行った。

- 5) 通常の教科書によればカイ二乗検定を用いるのが普通であるが、カイ二乗分布は尤度比基準(likelihood of ratio criterion)の近似値であるので、尤度比基準を用いる。尤度比検定および使用した計算ソフトについては以下の文献参照。
理論上の参考：B.S.エヴェリット著(弓野憲一・菱谷晋介訳)『質的データの解析—カイ二乗検定とその展開』，新曜社，1980年
計算ソフト：篠原弘章『行動科学のBASIC第5巻 ノンパラメトリック法』，ナカニシヤ出版，1989年
- 6) 担当教員はシリーズのすべての講義に学生とともに受講しているので、講義内容については把握している。

[付表1] 2000年 総合基礎「心豊かに生きる」アンケート（受講前 学生用）

1. あなたがこのシリーズで関心をもっているものはどれですか。関心をもっている順番に1、2、3と3つ番号をつけてください（講師については別紙参照のこと）。

- あなたの環境成績表は？
- 異文化としての日本
- 納得のできる生き方を選ぶ－官僚から農業家への転身
- 日本人の宗教観
- 変貌する家族像
- ポップ・カルチャーとしての音楽－時代を超えた音楽のあり方と楽しみ方
- 自己実現とキャリア・アップ
- 暮らしの中の法知識
- 芸術表現と現代社会
- 日本語再点検－言語生活と人間関係

2. 21世紀について、希望を持っていることがありますか。下記の項目にあてはまるものがあれば、○をつけてください（3つまで）。

- ①宇宙への進出 ②科学技術の発達 ③開発途上国の発展
- ④女性の地位の向上 ⑤生活の豊かさ ⑥国際交流の発展 ⑦環境の整備
- ⑧世界の平和 ⑨その他（具体的に ）

3. 21世紀について、不安を持っていることがありますか。下記の項目にあてはまるものがあれば、○をつけてください（3つまで）。

- ①戦争 ②人口の増加 ③エイズのまんえん ④環境破壊
- ⑤エネルギーの不足 ⑥経済の行き詰まり ⑦地震・災害
- ⑧社会保障の先細り ⑨その他（具体的に ）

4. 社会問題で、関心を持っていることがあれば、○をつけてください（3つまで）。

- ①異文化の交流 ②景気 ③ホームレス ④難民 ⑤経済摩擦
- ⑥ファッション ⑦少子化現象 ⑧セクハラ ⑨引きこもり
- ⑩幼児虐待 ⑪その他（具体的に ）

5. 今後の情報社会で、興味を持っているものがあれば、○をつけてください（いくつでも）。

- ①インターネット ②パソコン通信 ③コンピュータによる作曲・演奏
- ④コンピュータで絵を描く ⑤電子出版（編集・出版など）
- ⑥動画（アニメ・映画など）の作成 ⑦電子マネー
- ⑧その他（具体的に ）

6. 環境問題で、関心を持っているものがあれば、○をつけてください（3つまで）。

- ①熱帯雨林の破壊 ②空気・水の汚染 ③地球の温暖化
- ④オゾン層の破壊 ⑤動物の絶滅 ⑥身近な自然の消滅 ⑦リサイクル
- ⑧環境ホルモン（ダイオキシンなど） ⑨食品添加物 ⑩遺伝子組み換え食品
- ⑪その他（具体的に ）

7. 下記の項目について、あなたがやっているリサイクルや環境への配慮があれば◎を、
気になっているがいつも心がけているわけではないものに○を、全く考えたこともないもの
に×をつけてください。いずれでもないものには印をつけないでください。

- ①牛乳パック ②発泡スチロールトレイ ③ペットボトル ④ビン・缶
⑤古紙 ⑥衣類 ⑦ボタン電池・乾電池 ⑧生ゴミの減量
⑨合成洗剤の不使用 ⑩エネルギーの節約 ⑪殺虫剤の不使用
⑫影響を考慮した携帯電話の使用 ⑬その他（具体的に)

8. あなたのお母さん（いらっしゃる場合はお母さんに代わるもっとも身近な女性）
は、以下のどれに主にあてはまりますか。1つ○をつけてください。

- ①フルタイムで仕事をしている ②パートで仕事をしている
③ボランティアなどで活躍している ④生涯学習などを行っている
⑤趣味を楽しんでいる ⑥家事中心である
⑦その他（具体的に)

9. あなたは将来どのような生き方をしようと思っていますか。下記の項目の中からあて
はまるものに○をつけてください。

- ①結婚したら仕事はずっと辞める。
②結婚後、出産したら仕事はずっと辞める。
③結婚後、出産したら仕事はいったん辞めるが、育児から手が離れたら、再びフルタイ
ムの仕事につきたい。
④結婚後、出産したら仕事はいったん辞めるが、育児から手が離れたら、パートタイ
ムの仕事につきたい。
⑤結婚・出産に関わりなく仕事にはつきたくない。
⑥結婚・出産に関わりなく仕事を続ける。
⑦その他（具体的に)

10. あなたの心を豊かにしてくれていると思うものは何だと思いますか。下記の項目にあ
てはまるものがあれば、○をつけてください（3つまで）。

- ①お金 ②時間 ③家族 ④恋人 ⑤友人 ⑥先生
⑦仕事 ⑧趣味 ⑨信仰 ⑩ボランティア ⑪勉学 ⑫読書
⑬スポーツ ⑭その他（具体的に)

11. 20年後、あなたはどのような生活を送っていると思いますか。想像して自由に詳し
く述べてください（裏面に書いてください）。

[付表2] 2000年 総合基礎「心豊かに生きる」アンケート（受講前 社会人用）

1. あなたがこのシリーズで関心をもっているものはどれですか。関心をもっている順番に1、2、3と3つ番号をつけてください（講師については別紙参照のこと）。

- あなたの環境成績表は？
- 異文化としての日本
- 納得のできる生き方を選ぶ－官僚から農業家への転身
- 日本人の宗教観
- 変貌する家族像
- ポップ・カルチャーとしての音楽－時代を超えた音楽のあり方と楽しみ方
- 自己実現とキャリア・アップ
- 暮らしの中の法知識
- 芸術表現と現代社会
- 日本語再点検－言語生活と人間関係

2. 21世紀について、希望を持っていることがありますか。下記の項目にあてはまるものがあれば、○をつけてください（3つまで）。

- ①宇宙への進出 ②科学技術の発達 ③開発途上国の発展
- ④女性の地位の向上 ⑤生活の豊かさ ⑥国際交流の発展 ⑦環境の整備
- ⑧世界の平和 ⑨その他（具体的に ）

3. 21世紀について、不安を持っていることがありますか。下記の項目にあてはまるものがあれば、○をつけてください（3つまで）。

- ①戦争 ②人口の増加 ③エイズのまんえん ④環境破壊
- ⑤エネルギーの不足 ⑥経済の行き詰まり ⑦地震・災害
- ⑧社会保障の先細り ⑨その他（具体的に ）

4. 社会問題で、関心を持っていることがあれば、○をつけてください（3つまで）。

- ①異文化の交流 ②景気 ③ホームレス ④難民 ⑤経済摩擦
- ⑥ファッション ⑦少子化現象 ⑧セクハラ ⑨引きこもり
- ⑩幼児虐待 ⑪その他（具体的に ）

5. 今後の情報社会で、興味を持っているものがあれば、○をつけてください（いくつでも）。

- ①インターネット ②パソコン通信 ③コンピュータによる作曲・演奏
- ④コンピュータで絵を描く ⑤電子出版（編集・出版など）
- ⑥動画（アニメ・映画など）の作成 ⑦電子マネー
- ⑧その他（具体的に ）

氏名

6. 環境問題で、関心を持っているものがあれば、○をつけてください（3つまで）。

- ①熱帯雨林の破壊 ②空気・水の汚染 ③地球の温暖化
④オゾン層の破壊 ⑤動物の絶滅 ⑥身近な自然の消滅 ⑦リサイクル
⑧環境ホルモン（ダイオキシンなど） ⑨食品添加物 ⑩遺伝子組み換え食品
⑪その他（具体的に ）

7. 下記の項目についてあなたが実行しているリサイクルや環境への配慮があれば◎を、
気になっているがいつも心がけているわけではないものに○を、全く考えたこともないもの
に×をつけてください。いずれでもないものには印をつけないでください。

- ①牛乳パック ②発泡スチロールトレイ ③ペットボトル ④ビン・缶
⑤古紙 ⑥衣類 ⑦ボタン電池・乾電池 ⑧生ゴミの減量
⑨合成洗剤の不使用 ⑩エネルギーの節約 ⑪殺虫剤の不使用
⑫影響を考慮した携帯電話の使用 ⑬その他（具体的に ）

8. あなたの心を豊かにしてくれていると思うものは何だと思いますか。下記の項目にあ
てはまるものがあれば、○をつけてください（3つまで）。

- ①お金 ②時間 ③家族 ④恋人 ⑤友人 ⑥先生
⑦仕事 ⑧趣味 ⑨信仰 ⑩ボランティア ⑪勉学 ⑫読書
⑬スポーツ ⑭その他（具体的に ）

9. 今後、どのような生き方をしたいと思っていますか。自由にお書きください。

（書ききれない時は裏面にもどうぞ）

10. この講座をどのようにしてお知りになりましたか。お書きください。

[付表3] 2000年 総合基礎「心豊かに生きる」終了時アンケート（学生用）

1. このシリーズであなたが関心をもったテーマはなんですか。次の中から関心の高かった順に1、2、3と3つ番号をつけてください。

- | | |
|--------------------------------|-------------------|
| ①あなたの環境成績表は？ | ②異文化としての日本 |
| ③納得のできる生き方を選ぶ
（官僚から農業家への転身） | ④日本人の宗教観 |
| ⑤変貌する家族像 | ⑥ポップ・カルチャーとしての音楽 |
| ⑦自己実現とキャリア・アップ | ⑧暮らしの中の法知識 |
| ⑨芸術表現と現代社会 | ⑩日本語再点検－言語生活と人間関係 |

2. このシリーズを受講して、あなたの認識・態度に何か変化がありましたか、次のこと
 についてそれぞれ該当する 変 じ 変
 ところに○をつけて、内容を簡単に わ いち
 述べてください。 ら えら わ
 （以前の考え、今はこうであるなど） な など っ
 い いも た

- | | |
|------------------------------|-------|
| ①結婚に対する考え方 | _____ |
| () | |
| ②家庭のあり方 | _____ |
| () | |
| ③女性のキャリア・アップについて | _____ |
| () | |
| ④音楽の楽しみ方 | _____ |
| () | |
| ⑤環境問題（放射能・ダイオキシン
二酸化炭素など） | _____ |
| () | |
| ⑥宗教に対する考え方 | _____ |
| () | |
| ⑦文楽と写真について | _____ |
| () | |
| ⑧ことば遣いについて | _____ |
| () | |
| ⑨農業に対する考え方 | _____ |
| () | |
| ⑩法知識について | _____ |
| () | |
| ⑪外国人との付き合い方について | _____ |
| () | |
| ⑫これからの生き方について | _____ |
| () | |

年 組 学籍番号

氏名

3. これからの生活のなかで、あなたの心を豊かにしてくれると思うものは何だと思いますか。下記の項目の中にあてはまるものがあれば、○をつけてください（3つまで）

- ①お金 ②時間 ③家族 ④恋人 ⑤友人 ⑥先生
⑦仕事 ⑧趣味 ⑨信仰 ⑩ボランティア ⑪勉学 ⑫読書
⑬スポーツ ⑭その他（具体的に ）

4. あなたは将来どのような生き方をしようと思っていますか、1つ選んで○をつけてください。

- ①結婚したら仕事はずっと辞める。
②結婚後、出産したら仕事はずっと辞める。
③結婚後、出産したら仕事はいったん辞めるが、育児から手が離れたら、再びフルタイムの仕事につきたい。
④結婚後、出産したら仕事はいったん辞めるが、育児から手が離れたら、パートタイムの仕事につきたい。
⑤結婚・出産に関わりなく仕事にはつきたくない。
⑥結婚・出産に関わらず仕事を続ける。
⑦その他（ ）

5. 現代社会であなたが一番重要だと考えていることは何ですか、1つ選んで○をつけてください。

- ①経済の動向 ②国際政治的問題（民族紛争、難民など）
③環境の整備 ④情報化社会
⑤異文化交流 ⑥家庭のあり方
⑦エネルギー問題 ⑧食糧の自給、安全性
⑨福祉 ⑩その他（具体的に ）

6. 今回は社会人の方の授業参加がありました。これについてどのような感想を持ちましたか。

7. 総合基礎科目の授業の感想を書いてください（紙面が足りないときは裏面へ）。

[付表 4] 2000 年 総合基礎科目「心豊かに生きる」終了時アンケート（社会人用）

1. このシリーズで関心をお持ちになったテーマは何ですか。次の中から関心の高かった順に 1、2、3 と 3 つ番号をおつけください。

- | | |
|--------------------------------|-------------------|
| ①あなたの環境成績表は？ | ②異文化としての日本 |
| ③納得のできる生き方を選ぶ
（官僚から農業家への転身） | ④日本人の宗教観 |
| ⑤変貌する家族像 | ⑥ポップ・カルチャーとしての音楽 |
| ⑦自己実現とキャリア・アップ | ⑧暮らしの中の法知識 |
| ⑨芸術表現と現代社会 | ⑩日本語再点検－言語表現と人間関係 |

それぞれ選んだ理由：

1)

2)

3)

2. これからの生活のなかであなたの心を豊かにしてくれるものは何だと思われますか。

3. 現代社会であなたがもっとも重要だとお考えのことは何ですか、○をおつけください（1 つだけ）。

- | | |
|----------|---------------------|
| ①経済の動向 | ②国際政治的問題（民族紛争、難民など） |
| ③環境の整備 | ④情報化社会 |
| ⑤異文化交流 | ⑥家庭のあり方 |
| ⑦エネルギー問題 | ⑧食糧の自給、安全性 |
| ⑨福祉 | ⑩その他（具体的に |

4. 今回のシリーズ全般についての感想をお書きください。

5. 今後ご希望のテーマ、講師などがあれば、お書きください。

6. 今回は学生と一緒に受講していただきましたが、そのことについてどのようにお考えでしょうか。

7. 一般社会人向けの講座について、どのようにお考えでしょうか。
(回数、時期、時間帯、頻度、有料の場合いくらまで、その他)

8. 学生の態度はいかがだったでしょうか。

9. 本学にどのような印象をお持ちになりましたか。また、何か希望されることがあれば、お書きください。

お名前

(ありがとうございました)